

音楽と故郷への思い

マシコタツロウ スペシャルインタビュー

写真 | アラタケンジ 文 | 石川聖太



子供の頃の努力が報われた瞬間

小学生の頃は外で遊びながらも、きびしい母親の言いっけです。ピアノ教室に通っていました。教室は正直苦手でしたが、続けていけばいいことが必ずあると言われていたので、本当にあるのかなあと半信半疑のまま教室に通う日々で。クラシックを習っていましたが、僕にはどこか合っていないかつたらしく、それを見かねた教室の先生が、「作曲をやってみては？」とアドバイスをくれて。六年生の時に録音機能のあるシンセサイザーを親に買ってもらうのですが、楽しくて仕方なくて、それこそファミコンをやるように触っていました。今思うと、ゲーム感覚で作曲をしていたんでしょうね。その後に通う中学校では、バレー部でレギュラーをやったりとスポーツにも力を入れていました。近隣の複数の小学校が一つに集まる中学校だったので、自分の過去を知らない人も多く、ピアノを習っていたことを知られたくなかった僕には都合が良かったのですが、クラスで合唱をやることになった時、先生が「誰かピアノを弾けるやつはいないか？」とクラスのみんなに声をかけて。その時に、ほら、こういう時に余計なことを言うやつて必ずいるじゃないですか(笑)。同じ小学校から来た誰かが「マシコが弾けんじゃ〜ん」と声をあげて。それを聞いたみんなが「えっ？マシコピアノ弾けんの？すげえじゃん」となり、女の子たちも「えっ？すげえ〜いキャ〜♡」と色めき立ったんです。

その時、おかあさんありがとう！と心底感謝をしました(笑)。だいたい我慢？をしましたが、初めて今までの苦労が報われたと思いい、それが今の仕事につながっているわけです(笑)。

故郷に対する特別な想いとこだわり

故郷に対する特別な想い…ありますね。地元が大好きなんです。常陸太田大使も長くやっています。活動の拠点は東京かもしれないけれど、茨城が自分の心の本拠地。行動範囲が広がっただけで、でっかいコミュニティの中で行ったり来たりしているというイメージで、特に東京に上京したという感じではないんです。

携帯電話に例えるなら、充電器は茨城にあって、小型のバッテリーパックを持ち歩いて日々活動して

いるようなイメージで、携帯本体もバッテリーパックも合わせて充電できる場所が茨城なのかな、と思います。東京と茨城を一番ポーターレスに活動しているのは僕かもしれません。

ラジオのパーソナリティーもやっていて、その公開放送で毎週茨城へ来ているのですが、番組内のコーナー「マシコの青なじみ*」の効果か、最近はいイベントなどで呼ばれる時に「マシコタツロウコンサート」じゃなくて「マシコタツロウトークショー」(笑)。番組内で話す茨城弁は、楽器を一つ持っているようなものです。あの訛りは、地元の銭湯にあるサウナで話している五十代のおじさん達のトークをベースにされていて、番組にいたたくメールは、茨城弁と標準語で書かれたものがあるのですが、標準語の文章を即座に茨城弁に変換して読み上げるので、それを隣で見ているラジオ局のスタッフに「マシコには才能がある、茨城弁を話芸にまで推しあげた」と褒められています(笑)。

音楽を創るということ

基本的に曲づくりをする時は、メロディから先につくりまします。作業は日中が多く朝十時から十三時ぐらいまでやって、何か転がりださないと巨手を止めるんです。一度休んでから再び取り掛かり、それでもダメならその日は終わりにして、車やバイクでドライブに出かけたり、飲みに出してしまうこともあります(笑)。反対に少しでも曲が転がり出したら休みなく作業を



*: 茨城放送「IBS MUSIC STATE」内のコーナーで、茨城弁を使ったトークが話題

進めるので、気づくと十二時間ぐらいたっていることも
あります。あと、いいAメロとBメロができれば、すぐ
にサビの作曲をせず数時間放置してみたり、曲が生
まれた熱量をそのまま伝えるために二気に組み立てた
りもします。やる時はやる、時にはさっと手を引く、
そんなメリハリがつくる上で大切なんだと思います。
曲づくりの際に使う楽器は鍵盤が多いです。ギターの
曲を依頼された時はギターでつくりみます。ギターで、
ちよつといいコードだと思つて弾いているとそれ自体に
酔つてしまい、後で聴き直すと全然ダメ、なんてことも…。
もちろん、すごくいい曲もフツとできたりすること
があるので、ある意味最後の切り札みたいなものかな
(笑)。反対に「これはピアノじゃないとダメだ」と思う
こともありますね。

シンガーソングライターと 作曲家の違い

シンガーソングライターとして曲をリリースすると、
依頼があつての楽曲制作はもちろん違うものです。
自分の曲をつくる時は、自身の裁量で決まる部分も
あるので、数日間で何曲もできたりするんですけど、
楽曲制作の場合だと、もちろん私のテイストに委ねら
れる部分もありつつ、こうした希望をいただくので、

その要望に応えなければお互いに納得できる楽曲は
生まれなれないと思います。その中で、自分でもチャレンジ
したなと思つたケースがありまして。あるアーティスト
に提供した楽曲で、プロデューサーさんとのプレストの
中で出た、先にくつか考えたうちの二曲を一曲に
合体させる手法で完成させました。私は普段、別の
メロディをつなげるようなやり方はしないのですが、
この手法は新鮮でした。とは言え、やはり私の作る
曲は普遍的なものが多いので、結果いろいろな人に
楽曲が提供できているんだなと思います。

姿勢から学ぶこと

最近ふと感じるのですが、アスリートがやたらカッコ
良く映るんです。それは自分が持つていないものを持つ
ているから。プロのスポーツ選手が、世界を相手に戦う。
日々繰り返し練習や訓練。まぐれがほぼ通用しない。
もしかしたら、プロとしてのピークはそう長くは続かず、
世界で戦える時間も限られているかもしれない。だか
らこそより強く光り輝けると思うんです。若い頃は
汗をかいて何かをやることはなんか暑苦しいなと思つ
たこともありましたが、今はそのストイックな姿がとて
も共感できますし、やり方こそ違えどその姿勢から
僕自身学ぶことも多いんです。

信念とこれからについて

音楽を作ることはずっと続けていきたいと思ひます。
これからの時代だからこそ、信念を持つて自分のやりたい
音楽をやろうと。曲を書く方にしても歌いたいという
人にできるだけ書きたいし、ライブにしてもトークショー
にしても自分で表現していくべきだと考えています。
よるこんでもらえる場所があればそれでいいと思ひますし、
色々な歌やトークとハイブリッドでやっていきたいですね。
「茨城町ふるさと大使」としては、涸沼自然公園の高
台のところに「太陽の広場」ってあるじゃないですか。
すぐロケーションがいい所なので、そこで大きめの音楽
イベントができればいいなと思って思ひます。将来的には
茨城町の歌も作曲してみたいと思ひますね(笑)



冊子Sunでは、マシコさんが青葉小学校・葵小学校の校歌に込めた想いを
webでは、アーティスト・マシコタツロウとしてのお話をうかがいました。
これからのマシコさんと茨城町のかかわりにも注目です!

マシコタツロウ 音楽家。一青窈の「ハナミズキ」をはじめ数々の楽曲をアーティストに提供。
シンガーソングライター、ラジオパーソナリティとしても活躍。
常陸太田大使や茨城新聞親善大使を務めるなど茨城県の地域振興に貢献。
2015年茨城町立青葉小学校、翌年葵小学校の校歌を制作。2017年茨城町ふるさと大使に就任。
Twitter @MASHIKO_TATSURO FACEBOOK facebook.com/マシコタツロウ-229991950813330